

2022年6月28日

「我らがアメリカと米州首脳会議」

駐日ボリビア大使館臨時代理大使

ナタリア・サラサール

ALBA-TCP は歴史的なプラットフォーム

周知のように、ALBA-TCP はラテンアメリカ・カリブの統合のための、歴史的で前例のないプラットフォームです。社会的側面を重視しており、人間を、統合の基礎であり中心であるとしています。連帯、相互補完性、正義、強力に基づき、ALBA 加盟国がもつ力や強みを団結させ尊重することに重点を置いています。

この意味で、ALBA-TCP を貫く軸の一つは、諸人民の組織、社会的勢力の組織をつなげて強化し、統合をより確固たるものにすることに直接的な関係があります。これは、ALBA 社会運動評議会を通じて行われます。

私たちの大陸には Abya Yala (アブヤ・ヤラ) と呼ばれる独自のアイデンティティがあります。アブヤ・ヤラには団結、統合という意味合いがあります。アブヤ・ヤラの地には、わたしたちを分つ国境や旗はありませんでした。人々は同胞のため、コミュニティーのため、団結と調和のために働いていました。そのうちに、別の場所からよその人が来て、分断の種をまき、地域の解体が始まり、私たちの天然資源を組織的に略奪するようになりました。

数世紀にわたって、私たちのアブヤ・ヤラは解体され略奪され、元来、土地にあった思想はシステムチックに植民地思想への服従を強いられました。しかし私たちという火・灯りを消すことはできませんでした。私たちは今生きていて、これまでになく強く、生命の文化を回復する闘いの途上にあります。

だからこそ、ALBA-TCP、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）、南米諸国連合（UNASUR）といった統合の場は、「私たち自身の道を歩み始め、私たちの偉大がアブヤ・ヤラに戻る」ための場なのです。

この意味で、ALBA 諸国の社会勢力をつなげるのが非常に重要なのだと、理解しなければなりません。ALBA は、社会勢力が国家の代表と同じレベルで参加する、唯一の場と言えるかもしれません。

ボリビアは民主主義を守る

ボリビアでは 2019 年に、11 月主義（noviembreismo）の政治家グループが憲法に反した事実上の政権を打ち立てました。我が国の社会的勢力や国民に対する虐殺、拷問の時でした。社会的勢力と国民は真っ先に、民主主義を守るために街頭に出ました。2021 年 10 月、さらなる国内不安定化を図る動きが警戒されていた頃、社会的勢力は改めてボリビアの民主主義を守るべく、先住民族の旗ウィパラを掲げて声を上げました。

これでは終わりません。ルイス・アルセ大統領がこのように言っています。「私たちには新しい世界秩序が必要だ。真に民主的で公平で、権力の均衡が取れていて、覇権がない秩序。民族自決の原則や内政不干渉の原則が完全に遵守される秩序。相互尊重に基づいた平和があり、政治的・経済的・社会的・文化的な多様性が認められる世界秩序が。」

米州機構は時代遅れの組織

内政干渉の明らかな例が、米州機構（OAS）で見られます。米州民主主義憲章に基づいて行動するのではなく、民主主義の原則に反した行動をしているのです。米州機構の内政干渉は、紛争の平和的解決に貢献するどころか、紛争を生み出しています。米州機構は時代遅れの実効のない組織となっており、私たちの諸国家の要請にも、マルチラテラリズムの原則にも応え得るものではありません。これに対し、統合のための機構・組織を他の場所で強化する必要が明らかになっています。

だからこそ、私たち ALBA 加盟国の人民は、共同体の力を目覚めさせ、私たちの主権、アイデンティティ、尊厳を守る必要があります。私たちは、世界の諸人民の統合の精神にならなくてはなりません。

良き生（Vivir Bien）のために

私たちは帝国主義の攻撃に抵抗してきたし、これからも抵抗を続けます。労働者運動、先住民族の土着農民運動、我らがアメリカの社会勢力、人民の崇高な大義のために献身する男女と共に、私たちはしっかりと歩み続けます。そして、ラテンアメリカ・カリブの団結を固め、諸人民の良き生（Vivir Bien）に向けて前進するために力を合わせながら、この道を歩み続けようと呼びかけます。

ありがとうございました。